

平成28年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年10月15日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コード番号 7829 URL http://www.samantha.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)寺田 和正
 問合せ先責任者 (役職名)専務取締役 (氏名)古市 知元 (TEL)03(5412)8193
 四半期報告書提出予定日 平成27年10月15日 配当支払開始予定日 平成27年11月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年2月期第2四半期の連結業績(平成27年3月1日～平成27年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第2四半期	21,055	10.7	1,580	△11.3	1,604	△8.5	779	△8.6
27年2月期第2四半期	19,027	41.3	1,781	154.4	1,753	116.9	853	101.0

(注) 包括利益 28年2月期第2四半期 750 百万円 (△11.6%) 27年2月期第2四半期 849 百万円 (115.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年2月期第2四半期	22.09	—
27年2月期第2四半期	24.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年2月期第2四半期	23,541	10,372	43.2
27年2月期	21,986	9,868	43.9

(参考) 自己資本 28年2月期第2四半期 10,176 百万円 27年2月期 9,653 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年2月期	—	5.00	—	7.00	12.00
28年2月期	—	5.00	—	—	—
28年2月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年2月期の連結業績予想(平成27年3月1日～平成28年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,370	17.6	3,950	20.3	3,900	15.7	1,760	18.7	49.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社 (社名) 、除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

28年2月期2Q	35,296,000株	27年2月期	35,296,000株
② 期末自己株式数	一株	27年2月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	35,296,000株	27年2月期2Q	35,296,000株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日本銀行の各種政策を背景に、企業部門に改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続きました。一方、円安による輸入価格上昇の影響、中国経済の減速懸念など、景気の先行については不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、外国人旅行者の増加によるインバウンド効果等により好調に推移する一方で、円安による物価の上昇や消費税増税後の節約志向など、不透明な状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。また、当社グループの2015年のテーマを「記念日」として、様々なキャンペーンを実施してまいりました。

<店舗展開について>

出店戦略として、多くの話題スポットや新しい地域への出店、大型商業施設との取組みなどを行ってまいりました。

バッグ事業においては、26店舗を出店いたしました。リニューアルオープンしたルクア大阪に西日本の旗艦店になる「サマンサタバサ ターミナル7 ルクア大阪店」を出店いたしました。また、国内最大級の商業施設であるイオンレイクタウンに、「サマンサベガ イオンレイクタウンkaze店」など、4ブランド出店いたしました。また、沖縄県では初出店となる「サマンサベガ&シュエット ギャラリー イオン沖縄ライカム店」、熊本県では「サマンサタバサ 鶴屋店」「サマンサタバサプチチョイス 鶴屋店」、大分県では「サマンサベガ&シュエットギャラリー アミュプラザおおいた店」「サマンサタバサプチチョイス アミュプラザおおいた店」を出店いたしました。さらに、新概念ショップ「ミミマルシェ サマンサタバサプチチョイス」をルミネ有楽町に、新業態店舗「サマンサ&シュエット スイーツ カフェ」を大阪ステーションシティノースゲートビルディング西館商業施設「LUCUA 1100」(ルクア イーレ)に出店いたしました。海外においては、韓国、シンガポールでそれぞれ2店舗、香港、中国でそれぞれ1店舗の出店を行い、合計6店舗出店いたしました。

アパレル事業においては、18店舗出店いたしました。株式会社ルミネと共同開発した新ブランド「And Couture(アンド クチュール)」を、ルミネ新宿、ルミネ有楽町、ルミネ横浜に出店いたしました。また、昨年度より展開しているブランド「REDYAZEL(レディアゼル)」をSHIBUYA109、LUCUA 1100(ルクアイーレ)、天神地下街、ルミネ横浜に、「MULLER(ミュラー)」を池袋パルコ、ルミネエスト新宿に出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計でブランド変更を含め、前年度末比で23店舗増加し、期末店舗数は439店舗となりました。

<プロモーション活動について>

プロモーション活動としては、積極的なCMプロモーションや、多数のファッション誌への掲載、ファッションショーへの協賛などを継続して行ってまいりました。

バッグ事業においては、世界のトップモデルでサマンサミューズのミランダ・カー出演の「Samantha Thavasa ～365日、毎日が記念日～」のCMを放映いたしました。本CMでは、本物のパールを生地にあしらひ、きめ細やかなパール感とエナメルならではの光沢感がポイントのサマンサタバサの大人気商品である「レディアゼル」のニューシリーズを紹介し、浜崎あゆみさんのCM楽曲も話題となりました。

また、EXILE のD.N.A を受け継ぎ本格的なダンスパフォーマンスを展開する女性グループ「E-girls」の楓さん、藤井夏恋さん、藤井萩花さん、佐藤晴美さんが出演し、当社グループの本年度のテーマである「記念日」と連動した「E-girls」の最新曲「Anniversary!!」をCM楽曲とした、「Samantha Vega meets E-girls」のCMを放映いたしました。

さらに、アジア最高峰のリアルクローズファッションショー「神戸コレクション」「東京ランウェイ」に協賛し、「サマンサタバサ」やアパレルの新ブランド「アンド クチュール」の新作商品をステージでお披露目いたしました。

ジュエリー事業においては、Samantha Tiara & Samantha Thavasa “サマンサティアラ ジュエリー”の第3弾となるCMを放映し、三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBEから、岩田剛典さん、今市隆二さん、登坂広臣さんが出演いたしました。また、本CMのお披露目会が開業3周年となる東京スカイツリータウン[®]で行なわれ、CM出演者による東京スカイツリー[®]オリジナルブルーライティング点灯式も合わせて行なわれ話題となりました。

ゴルフ事業においては、当社グループが主催する女子ゴルフトーナメントである、「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント 2015」を、7月17日(金)～19日(日)の3日間、茨城県・イーグルポイントゴルフクラブで開催し、大会3日間で過去最高の2万人以上の方にご来場いただきました。

<商品戦略について>

各ブランド事業において新作を販売し、多様化するファッションニーズに応える商品を積極的に展開してきました。また、商品の魅力をより高める雑誌や人気モデルとのコラボレーションを継続し、商品の販売増につながりました。

バッグ事業においては、高品質のレザー商品である「レディアゼル」「アゼルラフィー」「アゼル フルーリ」が堅調に推移いたしました。また、2015年春のCMで大人気の「レディアゼル」のパールエナメルシリーズや、レザー素材のボストンバッグで、国産牛革の厚みのあるものだけを選別し丸みがあるフォルムの「サニーノア」を販売いたしました。昨春に続き三越伊勢丹グループ、バンダイとの共同企画で「美少女戦士セーラームーン」と4ブランドの協業商品を販売し、大好評となりました。さらに、バッグを始めスイーツやかわいい小物など、大人気の「ふなっしー」とのコラボで大きな話題になりました。その他に、ディズニー映画「シンデレラ」の公開を記念した「シンデレラ」コレクションシリーズのバッグや小物、サンリオの人気キャラクター「マイメロディ」の40周年を記念したコラボレーションシリーズなど、話題性のある商品を販売いたしました。

ジュエリー事業においては、ブライダル強化とK18商品を中心に、サマンサティアラの人気シリーズ「Swingle～スウィングル～」や「フラワーレターズ」などが堅調に推移いたしました。また、昨年度に大人気パールシリーズをプロデュースし話題となった「Samantha Tiara」のプロモーションモデル兼コレクターデザイナーでもある紗栄子さんとのコラボレーションラインの第2弾の新作ジュエリーを販売いたしました。

アパレル事業においては、株式会社ルミネと共同開発した新ブランド「And Couture(アンド クチュール)」がデビューいたしました。当ブランドは、デベロッパーであるルミネと連携し、コンセプトづくりや内装の段階から、ルミネ独自の世界観に合わせた商品開発が可能となり、ルミネのお客様の感動を創造することができる提案をしてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は210億55百万円（前年同期比10.7%増）、売上総利益は137億70百万円（前年同期比9.9%増）となりましたが、積極的な新規出店に伴う人件費や減価償却費などの先行投資やプロモーション活動に伴う販促費が増加したため、営業利益は15億80百万円（前年同期比11.3%減）、経常利益は16億4百万円（前年同期比8.5%減）、四半期純利益は7億79百万円（前年同期比8.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は235億41百万円であり、前連結会計年度末と比較して15億55百万円増加しております。主な増加要因は、商品及び製品が11億40百万円、差入保証金が3億68百万円増加したことなどによるものであります。

(負債)

総負債は131億69百万円であり、前連結会計年度末と比較して10億51百万円増加しております。主な要因は、支払手形及び買掛金が5億59百万円、未払法人税等が6億3百万円減少した一方で、1年内返済予定の長期借入金が5億81百万円、長期借入金が18億12百万円増加したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産は103億72百万円であり、前連結会計年度末と比較して5億3百万円増加しております。主な増加要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ、3億43百万円減少し、32億14百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、13億50百万円（前年同四半期は4億94百万円の資金の増加）となりました。この主な内訳は、たな卸資産の増加額11億62百万円、法人税等の支払額13億55百万円などの支出要因が、税金等調整前四半期純利益15億70百万円、減価償却費4億65百万円などの収入要因を上回ったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、11億52百万円（前年同四半期は5億64百万円の資金の減少）となりました。この主な内訳は、有形固定資産の取得による支出5億70百万円、敷金及び保証金の差入による支出4億62百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、21億80百万円（前年同四半期は13億25百万円の資金の増加）となりました。この主な内訳は、長期借入れによる収入30億円などの収入要因が、長期借入金の返済による支出6億5百万円、配当金の支払額2億45百万円の支出要因を上回ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月期の業績予想につきましては、平成27年4月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,557,379	3,214,113
受取手形及び売掛金	3,271,427	3,261,530
商品及び製品	7,535,192	8,675,579
仕掛品	30,509	27,275
原材料及び貯蔵品	452,530	478,232
その他	1,045,461	1,154,244
貸倒引当金	△1,361	△1,406
流動資産合計	15,891,139	16,809,570
固定資産		
有形固定資産	1,847,671	2,119,582
無形固定資産		
のれん	813,792	766,425
その他	470,853	566,958
無形固定資産合計	1,284,645	1,333,384
投資その他の資産		
差入保証金	2,369,217	2,737,311
その他	593,630	542,132
投資その他の資産合計	2,962,847	3,279,444
固定資産合計	6,095,164	6,732,411
資産合計	21,986,303	23,541,981
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,452,270	1,893,265
短期借入金	108,600	132,990
1年内返済予定の長期借入金	960,864	1,542,024
未払法人税等	1,472,905	869,280
賞与引当金	244,736	302,440
その他	1,729,129	1,491,080
流動負債合計	6,968,504	6,231,081
固定負債		
長期借入金	5,031,376	6,844,230
その他	117,554	93,887
固定負債合計	5,148,930	6,938,117
負債合計	12,117,435	13,169,198

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	5,373,964	5,906,413
株主資本合計	9,759,164	10,291,613
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,651	39,573
為替換算調整勘定	△139,856	△154,353
その他の包括利益累計額合計	△105,204	△114,779
少数株主持分	214,908	195,949
純資産合計	9,868,868	10,372,782
負債純資産合計	21,986,303	23,541,981

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
売上高	19,027,260	21,055,722
売上原価	6,492,419	7,285,615
売上総利益	12,534,841	13,770,106
販売費及び一般管理費	10,753,828	12,189,948
営業利益	1,781,012	1,580,158
営業外収益		
受取利息	455	434
受取配当金	577	630
為替差益	3,627	31,319
補助金収入	695	1,844
その他	2,036	12,622
営業外収益合計	7,392	46,852
営業外費用		
支払利息	19,034	17,362
たな卸資産処分損	11,926	—
その他	3,620	4,725
営業外費用合計	34,581	22,087
経常利益	1,753,824	1,604,923
特別損失		
固定資産除却損	8,750	34,565
固定資産売却損	42	—
特別損失合計	8,792	34,565
税金等調整前四半期純利益	1,745,031	1,570,357
法人税、住民税及び事業税	949,357	757,441
法人税等調整額	△23,151	46,023
法人税等合計	926,205	803,465
少数株主損益調整前四半期純利益	818,825	766,892
少数株主損失(△)	△34,215	△12,629
四半期純利益	853,041	779,521

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	818,825	766,892
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,297	4,921
為替換算調整勘定	26,928	△20,827
その他の包括利益合計	30,226	△15,905
四半期包括利益	849,052	750,986
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	879,998	769,946
少数株主に係る四半期包括利益	△30,945	△18,959

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,745,031	1,570,357
減価償却費	286,035	465,305
のれん償却額	47,366	47,366
賞与引当金の増減額(△は減少)	20,371	57,704
受取利息及び受取配当金	△1,033	△1,065
為替差損益(△は益)	△975	△1,386
支払利息	19,034	17,362
固定資産除却損	8,750	34,565
売上債権の増減額(△は増加)	△529,827	9,897
たな卸資産の増減額(△は増加)	△859,467	△1,162,855
仕入債務の増減額(△は減少)	127,808	△559,004
その他	480,269	△455,473
小計	1,343,365	22,773
利息及び配当金の受取額	553	659
利息の支払額	△20,471	△18,140
法人税等の支払額	△828,866	△1,355,758
営業活動によるキャッシュ・フロー	494,579	△1,350,465
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△511,753	△570,944
無形固定資産の取得による支出	△93,256	△170,146
投資有価証券の取得による支出	△2,999	△3,000
敷金及び保証金の差入による支出	△170,777	△462,896
敷金及び保証金の回収による収入	232,724	74,014
その他	△18,190	△19,993
投資活動によるキャッシュ・フロー	△564,252	△1,152,966
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	582,380	32,580
長期借入れによる収入	1,100,000	3,000,000
長期借入金の返済による支出	△418,109	△605,986
少数株主からの払込みによる収入	203,750	-
配当金の支払額	△142,314	△245,751
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,325,707	2,180,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	26,579	△20,676
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,282,615	△343,265
現金及び現金同等物の期首残高	2,509,680	3,557,379
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,792,295	3,214,113

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。